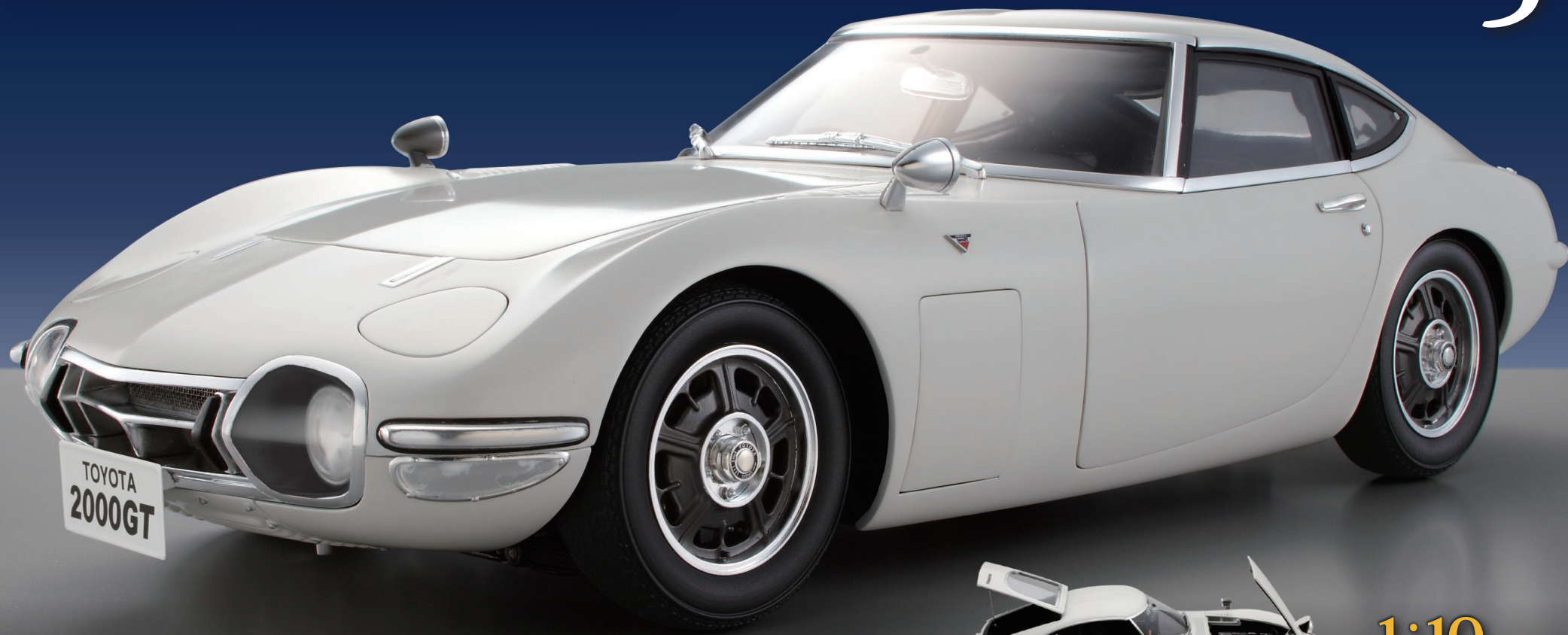


トヨタ 2000GT

# TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。  
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

5



今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！

1:10 SCALE

全長 417mm

 DeAGOSTINI

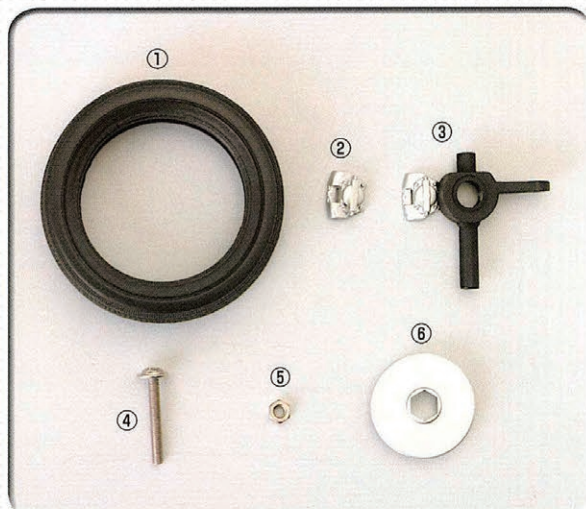


19号

# 左フロントナックルを組み立てる

今号では、2号で組み立てた左フロントタイヤに「ステアリングナックル」と「ブレーキディスク」を取り付ける。フロントタイヤは2号で左用を、7号で右用を組み立てているので間違えないようにしよう。なお、「ブレーキキャリパー」が外れやすい場合は、多用途接着剤を使って接着することをお勧めする。

## 今号のパーツ



- ①リヤタイヤ×1
- ②ブレーキキャリパー×1
- ③ステアリングナックル(左)×1
- ④フロントアクスルシャフト×1
- ⑤ナット×1
- ⑥ブレーキディスク×1

### 使用する道具

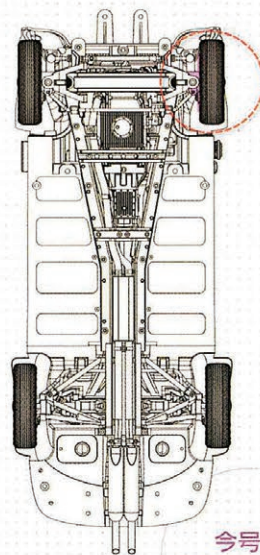
- ・ブラスドライバー(2番)
- ・クロスレンチ  
(12号で提供したもの)

### 用意するもの

- ・左フロントタイヤ(2号で組み立てたもの)
- ・左フロント用ハブナット(1号で提供したもの)
- ・左リヤホイール(18号で提供したもの)
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)

### あると便利な道具

- ・歯ブラシ(使い古したもので可)
- ・多用途接着剤  
(「セメダイン スーパーX-G」を推奨)
- ・ピンセット(2号で提供したもの)



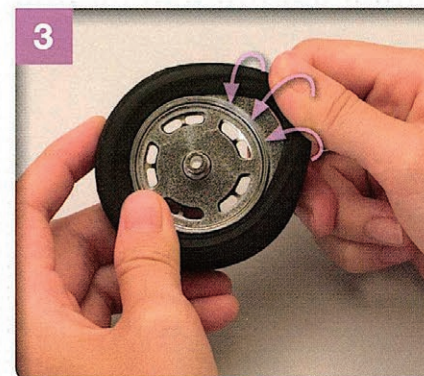
今号で作業する箇所



18号で提供した左リヤホイールを用意し、①リヤタイヤの内側に外縁の一部を潜り込ませる。



タイヤの側面(「サイドウォール」という)を引っ張りながらホイールにかぶせ、ホイールをタイヤの内側にはめ込む。



ホイールの片面をはめ込み終わったら裏返し、反対側の面も②と同じ要領で、サイドウォール部分がホイールを包み込むようにかぶせる(表、裏面どちらから作業してもいい)。タイヤをはめ込み終わったら、ビニール袋に入れて保管しよう。





4 取り付け後に真横から見た状態

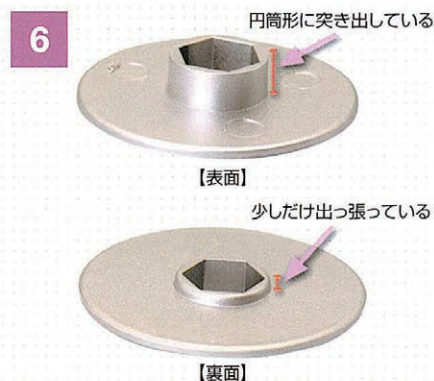
外れやすい場合は、ピンの先端に多用途接着剤を塗布する

②ブレーキキャリパーと③ステアリングナックル(左)を用意し、写真で示したステアリングナックル(左)の穴(2カ所)に、ブレーキキャリパー裏面の取り付けピン(2本)をセットする。ブレーキキャリパーが簡単に外れてしまう場合は、取り付けピンの先端に多用途接着剤を少量塗布して接着しよう。



5 中央部の穴がややくぼんでいる

ブレーキキャリパー裏面の取り付けピンをステアリングナックル(左)の取り付け穴に差し込み、軽く押し込んでおく。このとき、写真で示したステアリングナックル(左)に設けられた中央部の穴が、ややくぼんでいることを確認しておこう。



6 円筒形に突き出している

【表面】 少しだけ出っ張っている

【裏面】

⑥ブレーキディスクを用意し、表面と裏面の形状を確認する。中央部に設けられた円筒状の突起が突き出している側が表面になる。



7 表面を上にする

⑦で組み立てたステアリングナックル(左)に、ブレーキディスクを写真のように差し入れる。



8

次に、ブレーキディスク裏面の中央部分(少しだけ出っ張っている部分)をステアリングナックル中央部のくぼみにはめ込む。このときブレーキキャリパーが浮いてしまった場合は、差し込んだ取り付けピンをもう一度しっかり押さえておこう。

## はめ込んだタイヤが白っぽくなった場合の対処法

タイヤの表面には成形時に塗布された「離型剤」が付着しており、それが作業時にはく離して白っぽくなる場合がある。そんなときは、使い古した歯ブラシでタイヤ表面を擦り、離型剤をはがすことできれいに仕上げることができる。



①～⑧のはめ込み作業中に白っぽくなってしまったタイヤ。これは成形時に塗布された離型剤がはがれたことによるもの。必ず起こるものではないが、対処法を覚えておけば安心だ。



使い古した歯ブラシを用意し、タイヤ表面をしっかりと擦って離型剤を落とす。はがし残しがないよう、タイヤ表面をまんべんなく擦ろう。ただし、ホイール部分を擦ると塗装に傷を付ける恐れがあるので注意すること。



はく離した離型剤を落とせば、タイヤは元通りきれいになる。





9  
2号で組み立てた左フロントタイヤを用意して、裏側の形状を確認する。中央のアクスルシャフトの付け根部分が六角形になっていることを確かめておこう。



10  
8で組み立てたステアリングナックル(左)からブレーキディスクが抜け落ちないように保持し、ブレーキディスクの表面側から左フロントタイヤのアクスルシャフトに差し込む。



11  
ステアリングナックル(左)を奥まで差し込んだら、ブレーキディスクを保持したまま少しだけ左右に回し、アクスルシャフト付け根と穴の形状を合わせる。



12  
④フロントアクスルシャフトを用意し、写真で示した穴にセットする。



13  
フロントアクスルシャフトを奥まで差し込んでおく。



14  
12号で提供したクロスレンチを用意し、⑤ナットを“一番大きな六角穴”にセットする。

※提供されたクロスレンチのデザインは写真と異なります。



15  
ナットをセットした状態。写真のように、ナットは六角穴にぴったりと収まる。



16  
13で組み立てた左フロントタイヤを用意し、裏側に差し込んであるフロントアクスルシャフトが抜け落ちないように保持したまま表面に返す。次に、ホイール中心部に突き出しているフロントアクスルシャフトの先端へ、クロスレンチにはめ込んだ状態のナットをセットする。





17

フロントアクスルシャフトが  
回らないよう、指先で押さえておく

クロスレンチをホイールに対して垂直に保持し、右に回してナットをねじ込む。



18

写真のようにクロスレンチをセットしたまま左フロントタイヤを保持し、裏返す。2番のプラスドライバーを使って、裏側からフロントアクスルシャフトを締め込もう。ドライバーが“軽く回せなくなる程度”まで締め込めば完了(締め込み過ぎに注意)。



19

ステアリングナックル部分を持ち、タイヤを上に向けて回してみよう。タイヤが軽く回るようであればOKだ。



20

1号で提供した左フロント用ハブナットを用意する。これまでにハブナットは計3個が提供されている。もしも全部まとめて保管した場合は、写真を参照して表記の違いを確認し、「左用」を用意しておこう。



21

異物が付着していないことを確認する

ハブナットの裏側には、強力なネオジウムマグネットが組み込まれている。写真で示した部分に異物(金属片など)が付着している場合は、2号で提供したピンセットを使って取り除いておこう。



22

19まで組み立てた左フロントタイヤを用意し、ホイール表側の中心部にセットされたナットの上に、左フロント用ハブナットを取り付ける。ハブナットはマグネットで取り付けられているだけなので、外れても簡単に付け直すことができる。



23

ハブナットを取り付けた状態。ホイールに対して、ハブナットが垂直に取り付けられていることを確認しよう。



今号の完成

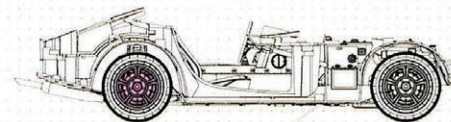
これで今回の作業は完了だ。タイヤ&ホイールにステアリングナックル(左)とブレーキディスクが備わり、サスペンション組み立ての足掛かりが出来上がった。なお、ステアリングナックルの形状は、モデルの組み立てやすさと耐久性、さらにはサスペンションの可動ギミック再現を優先させるため、オリジナルタイプとなっている。



20号

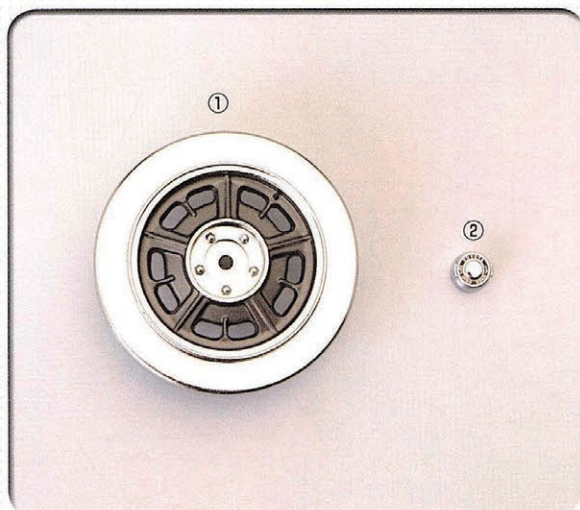
# 右リヤホイールを確認する

今号では、右リヤホイールと、それに取り付けるハブナットを提供する。これらのパーツは18号で提供した左リヤホイールと対になるもので、ハブナットに記載されたタイヤの回転方向が逆向きになっていることを確認しておこう。また、現在までに組み立てたエンジンブロック各部の再確認を行い、簡単なディテールアップ方法も紹介する。



今号のパーツ  
を組む箇所

## 今号のパーツ



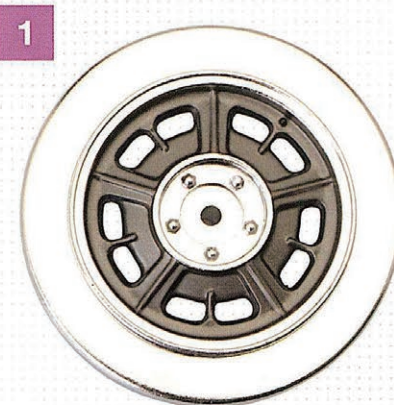
①右リヤホイール×1  
②右リヤ用ハブナット×1

### 使用する道具

・特になし

### 用意するもの

- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
- ・油性ペン
- ・エンジンブロック(15号で組み立てたもの)
- ・多用途接着剤または瞬間接着剤(低白化タイプ)※必要に応じて応じて用意



①右リヤホイールを用意し、パーツの状態を確認しよう。表面中央部の塗装ははげやすいので、硬いもので引っかいたりしないよう注意して扱おう。



次に②右リヤ用ハブナットを確認する。ハブナットの表面にはタイヤの回転方向を示す「ローテーションマーク」がプリントされているので、写真と照らし合わせて確かめよう。



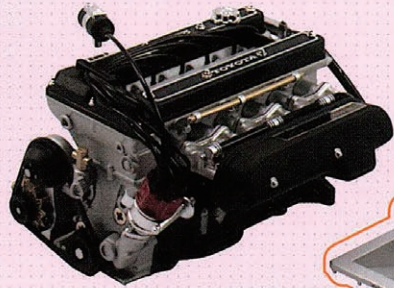
パーツの確認を終えたら、保管用のビニール袋を用意し、ホイールとハブナットを入れ、傷が付かないよう大切に保管しよう。その際はビニール袋に油性ペンで号数を記入しておくといい。



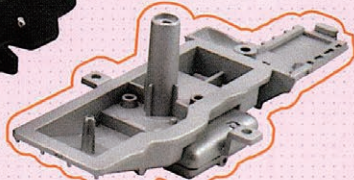
## エンジンブロック各部パーツの状態をチェックしよう

間もなく、組み立てたエンジンブロックをシャシーフレームに搭載する作業に着手する。その際には、仮組み状態のパーツを一時的に取り外し、シャシーフレームにエンジンを搭載してから再度取り付けることになる。そのため、現時点で「仮組み状態」にしておくパーツを把握しておく必要がある。同時に、その作業に影響のないパーツに関しては、多用途接着剤、もしくは瞬間接着剤(低白化タイプ)を使って接着することもできるので、ここで各パーツの取り扱い方法を紹介しよう。

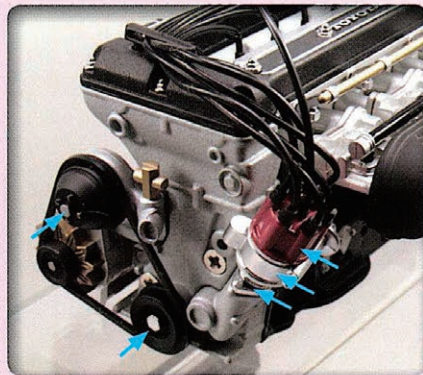
—=接着OK    —=接着NG



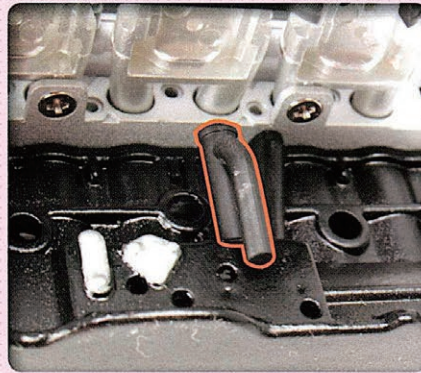
オイルパンはすべて仮組み状態で保管する



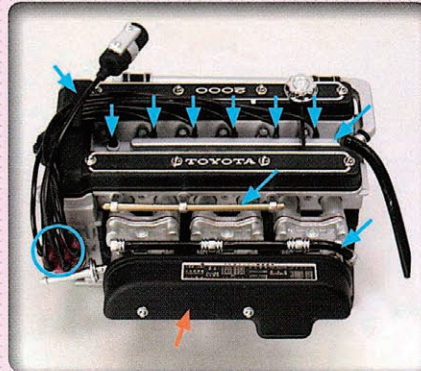
15号までに組み立てたエンジンブロック。15号で提供したオイルパンは、すべて仮組み状態のまま保管しよう。



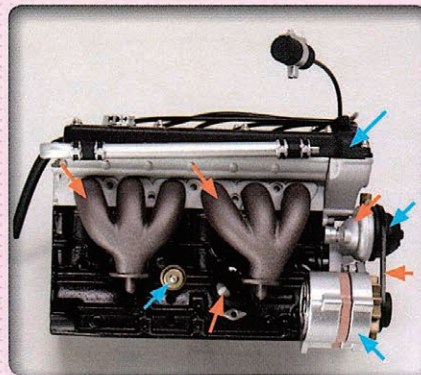
オルタネーターとディストリビューターは、現時点で接着することができる。パーツのはめ込みが緩い場合は、接着剤を使って固定しておく。



ベンチレーションチューブは、はめ込みが緩くても現時点では接着しないように。



スパークプラグコード、アクセルレーターリンクシャフト、フューエルホース、ヒーターホースは現時点で接着可能だ。ただし、インテークエアコネクターは接着しないように。



オイルプレッシャーセンダゲージ、オルタネーターファン、ウォーターポンプ・プリーは現時点で接着可能。ウォーターポンプ、マニホールド、オイルフィルター、Vベルトは接着しないように。

## ヒーターホースのディテールアップ

14号で取り付けしたヒーターホースのディテールアップ方法を紹介しよう。必須の作業ではないが、エンジンブロック後方に回り込む部分を黒く塗装することで、よりスケール感を高めることができる。使用するのはプラスチックモデル用の水性塗料だ。ラッカー系塗料を使うと、パーツに塗られた塗装被膜を侵してしまう恐れがあるので、必ず水性塗料を使う。



プラスチックモデル用の水性塗料(水性ホビーカラー・つや消し黒)を使えば、パーツの塗装を傷めずに塗装できる。



塗装用の細い筆を使い、写真で示した部分を「つや消し黒」で塗れば、簡単にディテールアップが可能だ。

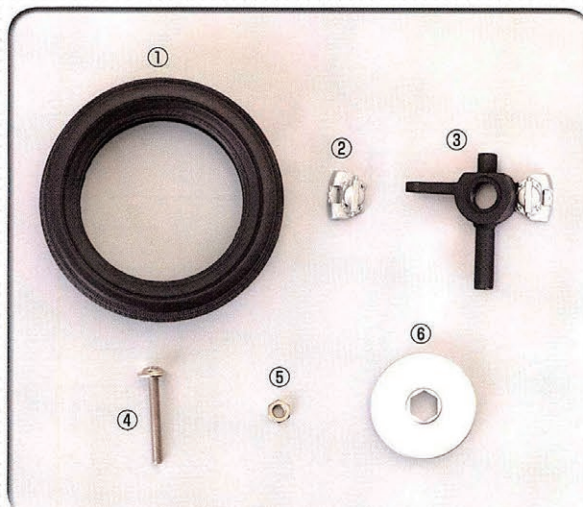


21号

## 右フロントナックルを組み立てる

今号では、7号で組み立てた右フロントタイヤに「ステアリングナックル」と「ブレーキディスク」を取り付ける。手順は19号で組み立てた左フロントナックルと同じだが、左右が対称となっているので、同時に組み立てる場合は注意が必要だ。なお、「ブレーキキャリパー」が外れやすい場合は、多用途接着剤を使って接着することをお勧めする。

### 今号のパーツ



- ① リヤタイヤ×1
- ② ブレーキキャリパー×1
- ③ ステアリングナックル(右)×1
- ④ フロントアクスルシャフト×1
- ⑤ ナット×1
- ⑥ ブレーキディスク×1

#### 使用する道具

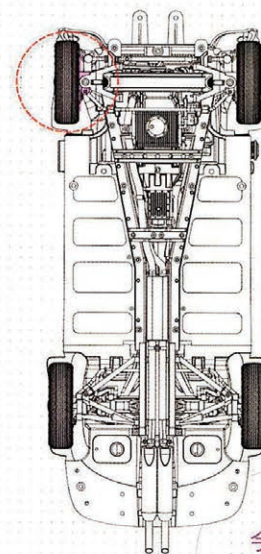
- ・ブラstdライバー(2番)
- ・クロスレンチ  
(12号で提供したもの)

#### 用意するもの

- ・右フロントタイヤ(7号で組み立てたもの)
- ・右フロント用ハブナット(6号で提供したもの)
- ・右リヤホイール(20号で提供したもの)
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)

#### あると便利な道具

- ・多用途接着剤  
(「セメダイン スーパーX-G」を推奨)
- ・ピンセット(2号で提供したもの)



今号で  
作業する箇所



20号で提供した右リヤホイールを用意し、①リヤタイヤの内側に外縁の一部を潜り込ませる。



タイヤの側面(「サイドウォール」という)を引っ張りながらホイールにかぶせ、ホイールをタイヤの内側にはめ込む。



ホイールの片面をはめ込み終わったら裏返し、反対側の面も②と同じ要領で、サイドウォール部分がホイールを包み込むようにかぶせる(表、裏どちらから作業してもいい)。タイヤをはめ込み終わったら、ビニール袋へ入れて保管しよう。なお、組み立て作業中にタイヤが白っぽくなってしまった場合は、19号の組み立てガイド内「はめ込んだタイヤが白っぽくなった場合の対処法」に従ってクリーニングしよう。

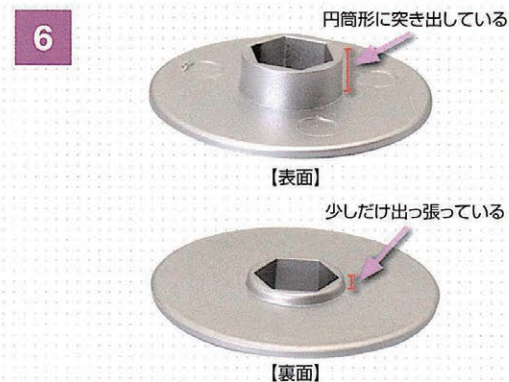




②ブレーキキャリアーと③ステアリングナックル(右)を用意し、写真で示したステアリングナックル(右)の穴(2カ所)に、ブレーキキャリアー裏面の取り付けピン(2本)をセットする。ブレーキキャリアーが簡単に外れてしまう場合は、取り付けピンの先端に多用途接着剤を少量塗布して接着しよう。



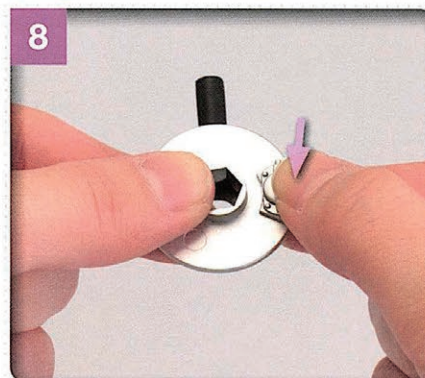
ブレーキキャリアー裏面の取り付けピンをステアリングナックル(右)の取り付け穴に差し込み、軽く押し込んでおく。このとき、写真で示したステアリングナックル(右)に設けられた中央部の穴が、ややくぼんでいることを確認しておこう。



⑥ブレーキディスクを用意し、表面と裏面の形状を確認する。中央部に設けられた円筒状の突起が突き出している側が表面になる。



⑤で組み立てたステアリングナックル(右)に、ブレーキディスクを写真のように差し入れる。



次に、ブレーキディスク裏面の中央部分(少しだけ出っ張っている部分)をステアリングナックル中央部のくぼみにはめ込む。このときブレーキキャリアーが浮いてしまった場合は、差し込んだ取り付けピンをもう一度しっかり押さえておこう。



7号で組み立てた右フロントタイヤを用意して、形状を確認する。中央のアクスルシャフト付け根部分が六角形になっていることを確かめておこう。



⑧で組み立てたステアリングナックル(右)からブレーキディスクが抜け落ちないように保持し、ブレーキディスクの表面側から右フロントタイヤのアクスルシャフトに差し込む。





11 ステアリングナックル(右)を奥まで差し込んだら、ブレーキディスクを保持したまま少しだけ左右に回し、アクスルシャフト付け根と穴の形状を合わせる。



12 ④フロントアクスルシャフトを用意し、写真で示した穴にセットする。



13 フロントアクスルシャフトを奥まで差し込んでおく。



14 12号で提供したクロスレンチを用意し、⑤ナットを“一番大きな六角穴”にセットする。



15 ナットをセットした状態。写真のように、ナットは六角穴にぴったりと収まる。



16 ⑬で組み立てた右フロントタイヤを用意し、裏側に差し込んであるフロントアクスルシャフトが抜け落ちないように保持したまま表面に返す。次に、ホイール中心部に突き出しているフロントアクスルシャフト先端へ、クロスレンチにはめ込んだ状態のナットをセットする。



17 クロスレンチをホイールに対して垂直に保持し、右に回してナットをねじ込む。



18



写真のようにクロスレンチをセットしたまま右フロントタイヤを保持し、2番のプラスドライバーを使って、裏側からフロントアクスルシャフトを締め込もう。ドライバーが“軽く回せなくなる程度”まで締め込めば完了だ(締め込み過ぎに注意)。

19



ステアリングナックル部分を持ち、タイヤを上に向けて回してみよう。タイヤが軽く回るようであればOK。

20



6号で提供した右フロント用ハブナットを用意する。これまでにハブナットは計4個が提供されている。もしも全部まとめて保管した場合は、写真を参照して「右用」を用意しておこう。

21



異物が付着していないことを確認する

ハブナットの裏側には、強力なネオジウムマグネットが組み込まれている。写真で示した部分に異物(金属片など)が付着している場合は、2号で提供したピンセットを使って取り除いておこう。

22



19まで組み立てた右フロントタイヤを用意し、ホイール表側の中心部にセットされたナットの上に、右フロント用ハブナットを取り付ける。ハブナットはマグネットで取り付けられているだけなので、外れても簡単に付け直すことができる。

23



ハブナットを取り付けた状態。ホイールに対して、ハブナットが垂直に取り付けられていることを確認しよう。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。19号で組み立てた左用と合わせ、フロント用ナックルが組み上がった。これらはサスペンションの組み立て作業時に使用するの、それまで大切に保管しておこう。特にタイヤは表面が劣化する場合もあるので、ビニール袋に入れて管理することをお勧めする。

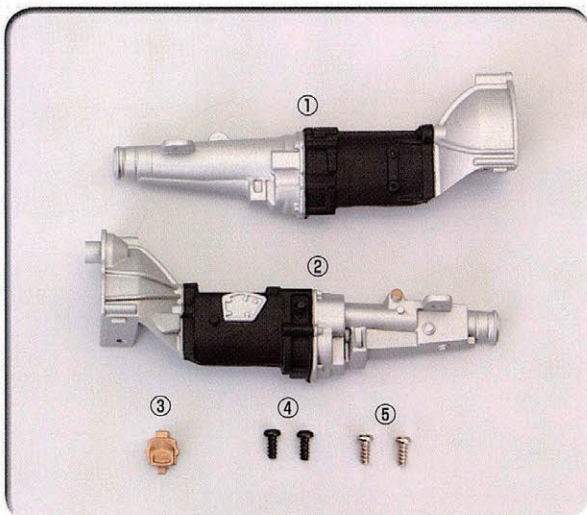


22号

# ミッションケースを仮組みする

今号では、エンジンの後方に取り付けるミッションケースを仮組みする。このパーツは、実車のクラッチケースとミッションケースを一体化したもので、シンプルな構造を採用することで組み立てやすくなっている。なお、今号の仮組みは“次号での固定作業をスムーズに行うため”なので、確実に行っておこう。

## 今号のパーツ



- ①ミッションケース(右)×1
- ②ミッションケース(左)×1
- ③クラッチケースカバー×1
- ④ビス(Hタイプ)×2(※1本は予備)
- ⑤ビス(Iタイプ)×2(※1本は予備)

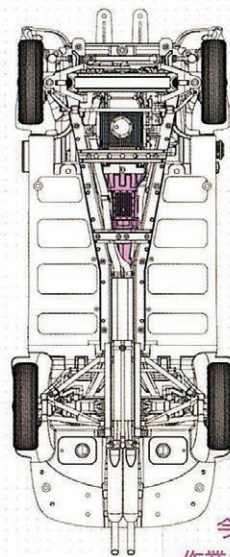
※④⑤は今回使用しないので、大切に保管しておこう

### 使用する道具

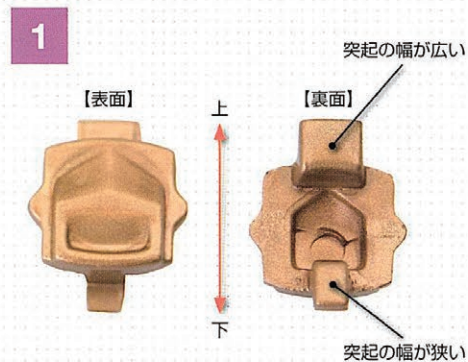
・特になし

### 用意するもの

- ・マスキングテープ
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
- ・油性ペン



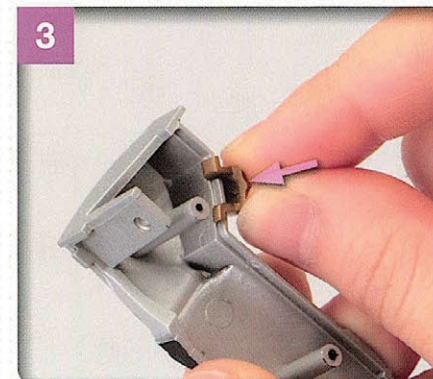
今号で作業する箇所



③クラッチケースカバーを用意し、その形状を確認しよう。写真で示した通り、パーツには上下があるので間違えないように注意しよう。

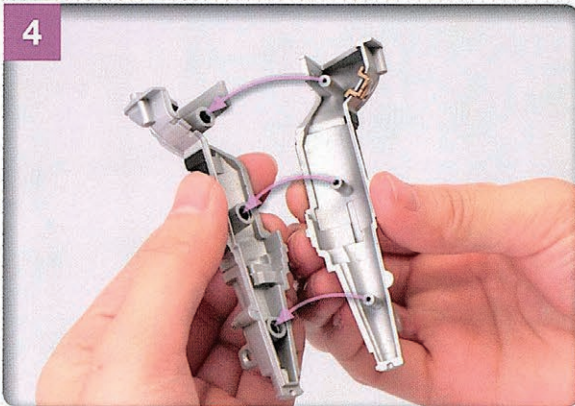


①ミッションケース(右)を用意し、写真で示した切り欠き部分にクラッチケースカバーをはめ込む。このとき、クラッチケースカバーの上下を間違えないよう注意すること。



クラッチケースカバーの裏面の上下から出ている突起を、ミッションケース(右)の溝部分に押し込む。写真の状態になればOKだ。

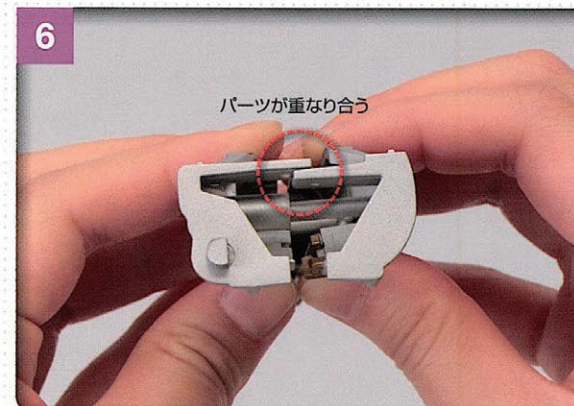




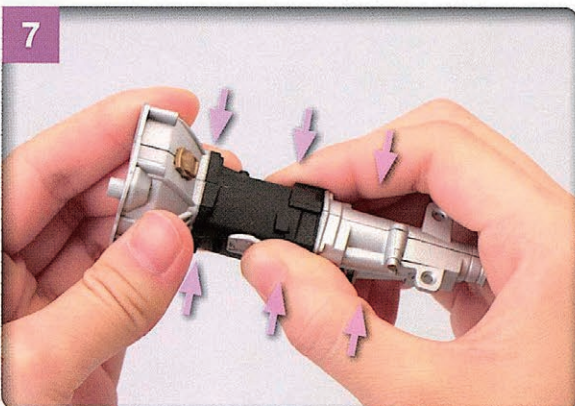
②ミッションケース(左)を用意し、③で組み立てたミッションケース(右)と合わせる。



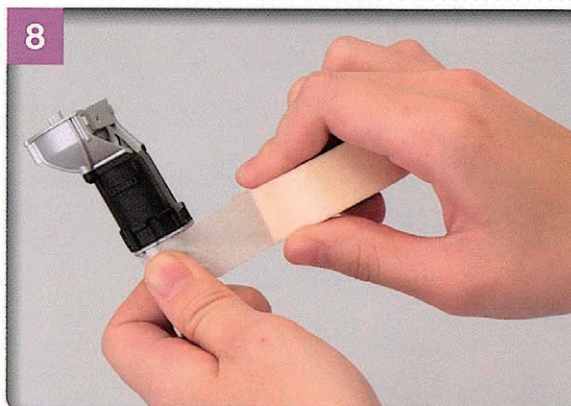
ミッションケースの内側に設けられた3カ所の取り付け部を合わせ、ゆっくりと左右から押し込んでいく。左右のミッションケースを“平行な状態”にしたままはめ込もう。



はめ込んでいる途中の状態。ミッションケースの前側下部(写真で示した部分)は、左右の突起が重なり合う。



左右のミッションケースをはめ込み終わったら、両側からしっかりと押さえておこう。



マスキングテープを用意し、左右のミッションケースが外れないよう軽く巻き付けて仮留めする。



### 今号の完成

これで今回の作業は完了だ。ミッションケース左右の合わせ目に目立つすき間ができて気になる場合でも、現時点ではそのまま保管しておこう。後の号で提供するシャシーフレームに搭載する段階で、エンジン関連パーツ全体のディテールアップ方法を紹介する予定だ。なお、今回の作業で使用しなかった④ビス(Hタイプ)と⑤ビス(Iタイプ)は、油性ペンで号数を書いたビニール袋に入れ、紛失しないよう大切に保管しておこう。

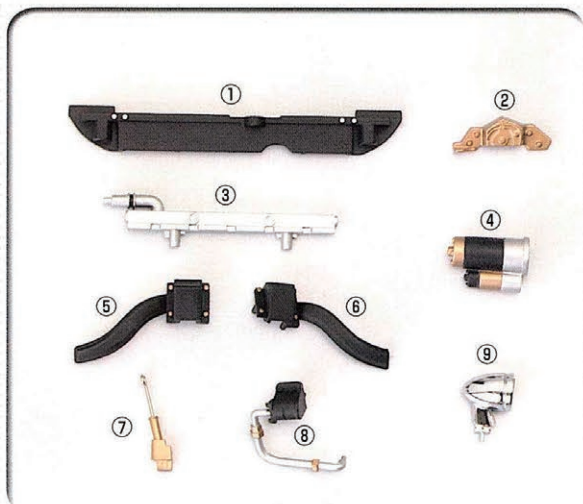


23号

# エンジンを組み上げる

今号では、15号および22号で仮組みしたオイルパンとミッションケースをエンジンに固定し、エンジンブロックを完成に近い状態まで組み上げる。そのため工程がやや多いので、順序よく着実に作業を進めるようにしましょう。また、用意するパーツやビスも多いので、使用するパーツや道具のリストを参照し、すべてそろっていることを確認してから着手しよう。

## 今号のパーツ



- ①ファイアーウォール×1
- ②フードロック×1
- ③ウォーターアウトレットハウジング×1
- ④スターター×1
- ⑤エンジンマウント(右)×1
- ⑥エンジンマウント(左)×1
- ⑦オイルゲージ×1
- ⑧フレキシブルホース×1
- ⑨左フェンダーミラー×1

※①②⑨は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

### 使用する道具

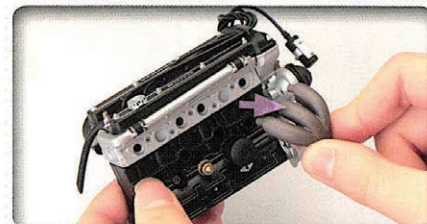
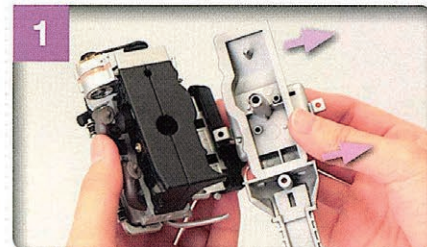
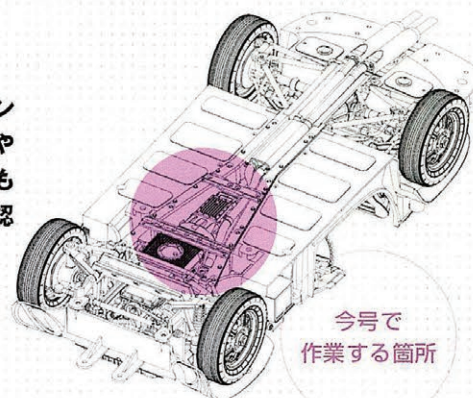
- ・プラスドライバー(1番)
- ・ロングドライバー(9号で提供したもの)

### 用意するもの

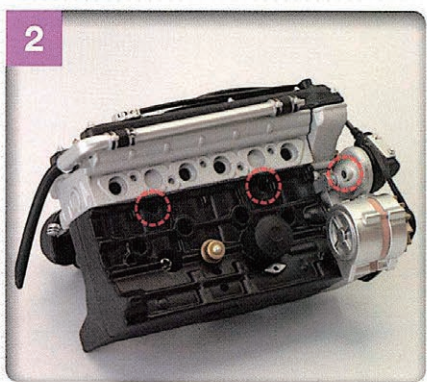
- ・エンジンブロック(15号で仮組みしたもの)
- ・オイルパン(15号で仮組みしたもの)
- ・ミッションケース(22号で仮組みしたもの)
- ・ビス(Fタイプ)×1(17号で提供したもの)
- ・ビス(Gタイプ)×3(17号で提供したもの)
- ・ビス(Iタイプ)×1(22号で提供したもの)
- ・本誌5号の組み立てガイド
- ・本誌15号の組み立てガイド
- ・本誌20号の組み立てガイド

### あると便利な道具

- ・多用途接着剤(「セメタイン スーパーX-G」推奨)
- ・プラスチックモデル用塗料うすめ液(ラッカー系に限る / 「Mr.カラーうすめ液」推奨)
- ・タミヤパテ(ベーシックタイプ)
- ・塗装用の筆
- ・塗料用の小皿
- ・水性ホビーカラー・つや消しブラック
- ・Mr.カラーNo.8・シルバー
- ・Mr.カラースーパーメタリックSM06 クロームシルバー



15号で仮組みしたエンジンブロックからオイルパンを取り外す。次に、右側に取り付けた2つのマニホールドを外す。マニホールド左右ボスの破損に注意しながら手前に引き抜くとよい。

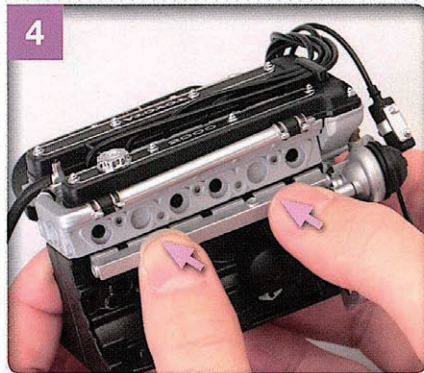


2 写真を参照し、シリンダーブロック(右)の上部と、ウォーターポンプ裏側に、それぞれパーツの取り付け穴が設けられていることを確認しよう。



3 ③ウォーターアウトレットハウジングを用意し、パーツの端に設けられた取り付けピンをウォーターポンプ裏側の穴に差し込む。それと同時に、パーツ側面に設けられた2本の取り付けピンを、シリンダーブロック(右)の取り付け穴にセットする。ウォーターアウトレットハウジングを写真の紫の矢印の方向に軽く押し込む感じで作業するといいだらう。





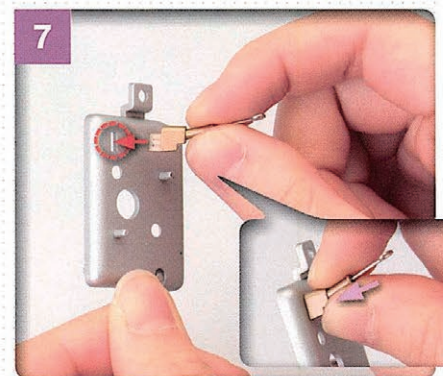
4  
ウォーターアウトレットハウジング側面の取り付けピンを穴にセットしたら、真っすぐに押し込んで固定する。



5  
1で取り外した2つのマニホールドを再び取り付ける。2つのマニホールドには前後があるので、もし取り付け位置がわからなくなったら、本誌5号の組み立てガイドを参照して確認するといい。また、取り付け部分が緩くなってしまった場合は、取り付けピンに多用途接着剤を少量塗布してから取り付けよう。



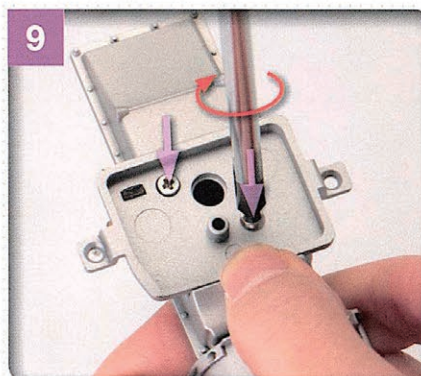
6  
1で取り外したオイルパンを分解する。このとき、はめ込んだパーツを強引に引き抜くと、取り付けピンや穴を傷めてしまうので丁寧に作業しよう。



7  
写真の赤丸で示したオイルパンBの四角い穴に、⑦オイルゲージを差し込む。向きを間違えないよう、写真と照らし合わせて作業しよう。差し込む際にオイルゲージの針金部分に無理な力が加わると、パーツの変形や破損などのトラブルを招いてしまうので注意が必要だ。



8  
オイルゲージをオイルパンBに取り付けたら、本誌15号の組み立てガイドを参照してオイルパンAに取り付ける。



9  
17号で提供したGタイプのビスを2本用意し、写真で示したビス穴にセットして、1番のプラスドライバーでねじ込む。

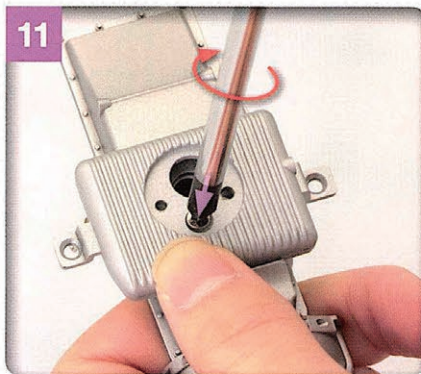


10  
本誌15号の組み立てガイドを参照して、オイルパンCをオイルパンBに取り付ける。

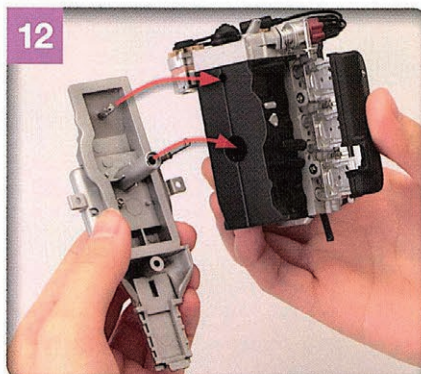


オイルパンBを裏返すと、オイルゲージの取り付けピンが突き出ている。もしオイルゲージの固定が緩い場合は、突き出ているピン全体に多用途接着剤を塗布しておこう。

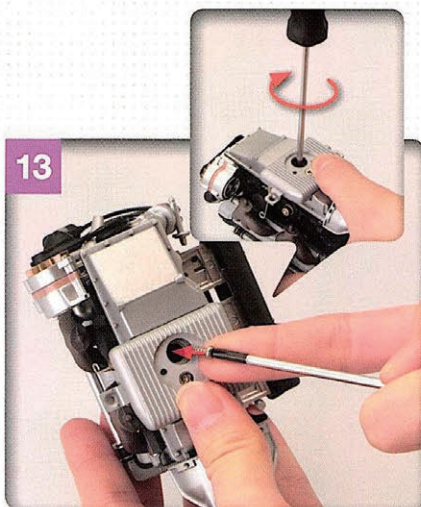




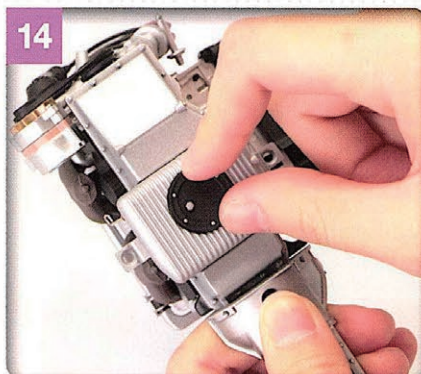
11 写真で示したビス穴にGタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。



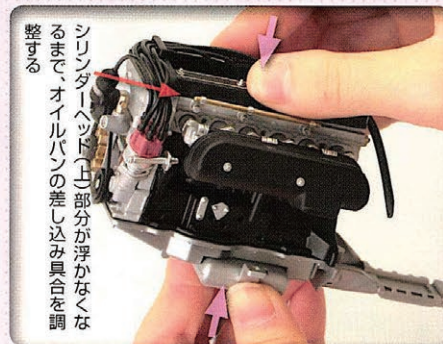
12 ⑤で組み立てたエンジンブロックを用意し、底面に11で組み立てたオイルパンを差し込む。



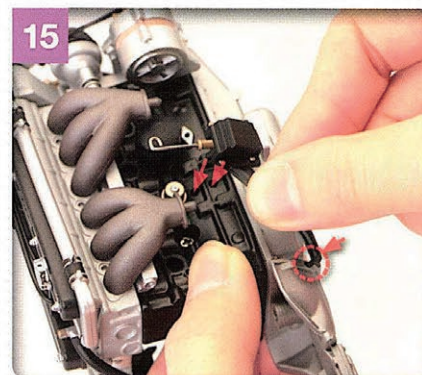
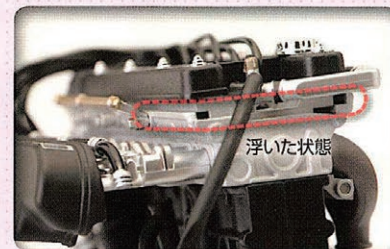
13 オイルパンを差し込み、シリンダーヘッドも浮き上がっていないことを確認したら、17号で提供したFタイプのビスを用意し、写真のビス穴にセットする。9号で提供したロングドライバーを用意し、Fタイプのビスをねじ込む。これによってシリンダーヘッド(上)とオイルパンが固定される。



14 オイルパンカバーを用意し、写真のように取り付ける。手順は本誌15号の組み立てガイドを参照しよう。なお、オイルパンカバーが簡単に抜け落ちてしまう場合は、取り付けピンの先端に少量の多用途接着剤を塗布してから取り付けよう。



15 オイルパンをエンジンブロックに差し込んだとき、シリンダーヘッドが浮いてしまうことがある。これは、オイルパン側のポストとシリンダーブロック側のポストがかみ合っていないためだ。両方のポストがかみ合うよう、オイルパンを慎重に差し込もう。

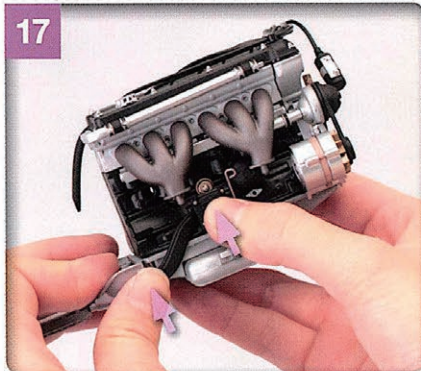


15 ⑤エンジンマウント(右)を用意し、エンジンブロックの右側面下、およびオイルパン右側面に設けられた取り付け穴にセットする。このとき、最初にエンジンマウント(右)後方の取り付けピンをオイルパンの穴(写真の赤丸)へ軽く差し込もう。



16 次に、写真で示した部分をエンジンブロックに押し込む。





17 15で差し込んだ取り付けピンと、16で押し込んだ部分を、もう一度押し込んで固定する。もしも簡単に外れてしまう場合は、取り付けピンの先端に多用途接着剤を少量塗布してから再度取り付けよう。



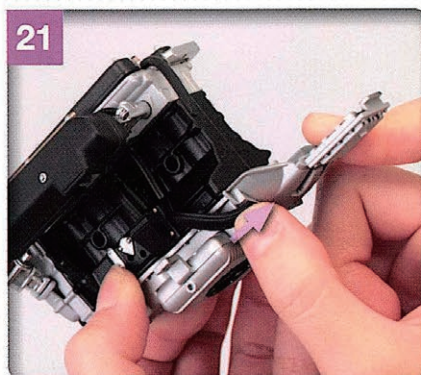
18 10号で取り付けしたベンチレーションチューブを、写真で示した位置になるよう調整する。もしも簡単に外れてしまう場合は、取り付けピンの先端に多用途接着剤を少量塗布してから取り付け、位置調整を行おう。



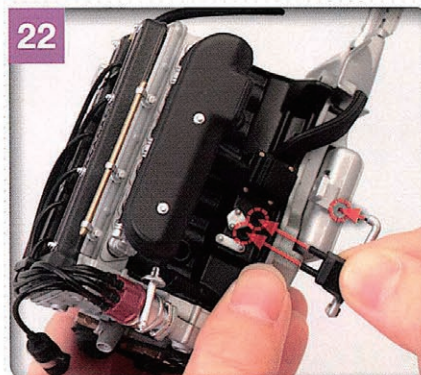
19 ⑥エンジンマウント(左)を用意し、エンジンブロックの左側面下、およびオイルパン左側面に設けられた取り付け穴にセットする。このとき、エンジンマウント(左)のフロント側に設けられた四角いスペースの中に、ベンチレーションチューブが収まるようにする。



20 エンジンマウント(左)のフロント側を真っすぐに押し込んで固定する。



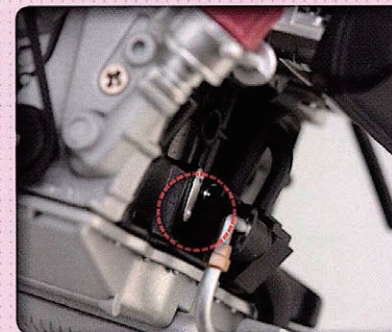
21 次に、エンジンマウント(左)後方のピンをオイルパンの取り付け穴に押し込む。この段階でエンジンマウント(左)が簡単に外れてしまう場合は、取り付けピンの先端に多用途接着剤を少量塗布してから再度取り付けよう。



22 ⑧フレキシブルホースを用意し、写真で示した取り付け穴に各取り付けピンをセットする。なお、フレキシブルホースの細い部分は破損しやすいので、取り扱いには注意が必要だ。

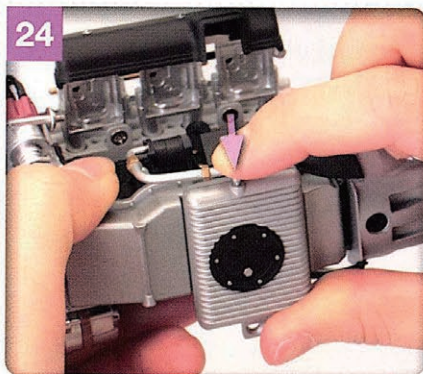


23 フレキシブルホースの黒いボックス部分を持ち、エンジンブロック左側面の取り付け穴に押し込んで固定する。作業中、細い部分に力を加えないよう注意しよう。



23で取り付けるフレキシブルホースの黒いボックス部分は、エンジンブロックの側面から少し浮いた状態で固定される仕様だ。密着しないからといって無理に押し込む必要はない。なお、23で簡単に外れてしまう場合は、取り付けピンの先端に多用途接着剤を少量塗布してから再度取り付けよう。

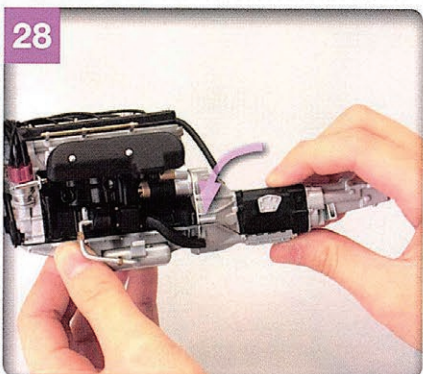




24  
フレキシブルホースの細い部分の先端に設けられた取り付けピンを、オイルパンの左側面に設けられた穴に差し込む。



25  
22号で仮組みしたミッションケースと④スターターを用意し、写真で示したミッションケース側の取り付けピンをスターターの穴に差し込む。穴とピンの形状は「D字形」になっているので、形を合わせて差し込んで固定する。簡単に外れてしまう場合は、取り付けピンの先端に多用途接着剤を少量塗布してから取り付けよう。



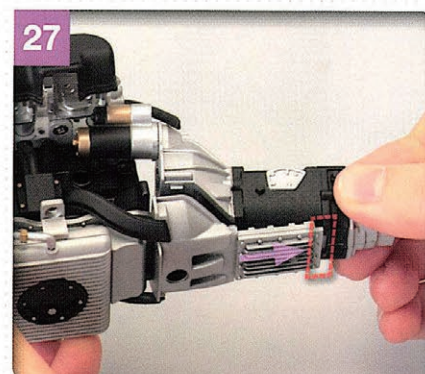
28  
27で差し込んだ部分を支点とし、ミッションケースを写真で示した方向に押し下げ、オイルパンと密着させる。



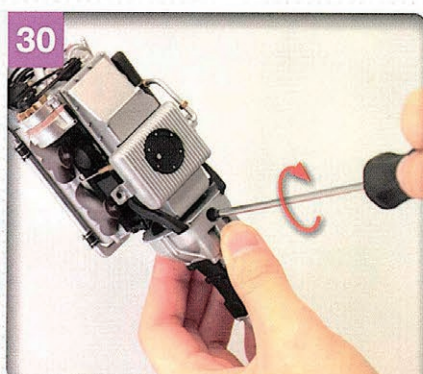
29  
ミッションケースが外れないよう保持したままエンジンブロックを裏返し、写真で示したビス穴に22号で提供したIタイプのビスをセットする。



26  
25で組み立てたエンジンブロックを用意し、その後方からミッションケースを真すずくにセットする。このとき、エンジンブロックの上部後方から垂れ下がっているヒーターホースを破損しないよう注意すること。

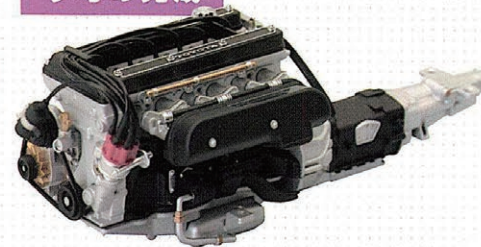


27  
オイルパン後端の段差になった部分を、ミッションケース下部内側へ差し込む。



30  
9号で提供したロングドライバーを使い、Iタイプのビスをねじ込んで、ミッションケースとオイルパンを固定する。

### 今号の完成



これで今回の作業は完了だ。オイルパンとミッションケースも取り付けられ、エンジンの大部分が組み上がった。この後、シャシーフレームへの取り付け作業を行うまでは保管することになる。そのため、固定状態が不安定なパーツは多用途接着剤を使って接着することをおすすめする。接着するポイントは、本誌20号の組み立てガイドで「仮組み」とした部分も含める（※ただしVベルトは除く）。次回エンジンブロックを使う作業までは時間的な余裕があるので、できるだけ完全な状態に仕上げ保管しよう。